

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL.9 NO.1

(通巻 35号)

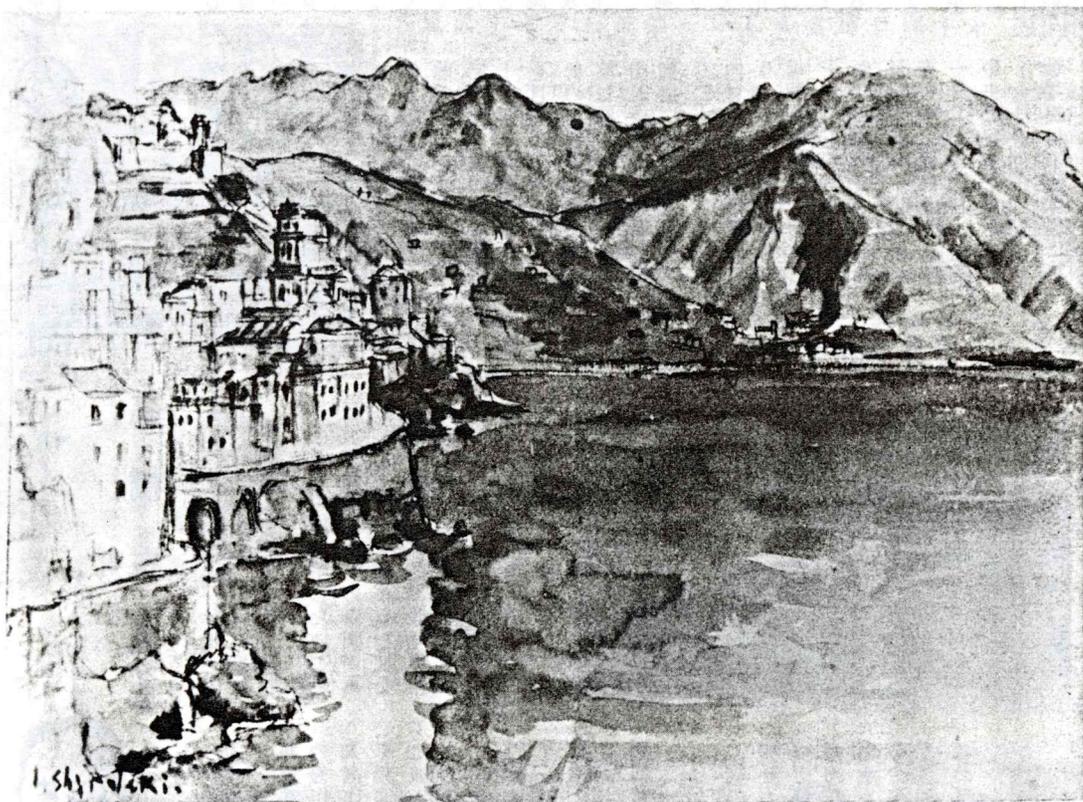
昭和57年 5月15日発行

編集・発行人 高橋 在久

〒 260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8 3 1 1(代表)



白滝幾之助「伊国ナポリ」

すずめがくしの春に思う

館長 高橋 在久

はじめに

館長室の窓から見ると、一日と新緑が増してきて、民俗伝承の「すずめがくし」の季節だと実感する。若葉が成長して枝に止まった雀をかくすという自然のことが、ひとつの季節でもあるこの言葉を連想する頃は、いつも年度始めで緊張し、私は心を改める。

美の広場化をめざして

早いもので、本館が開設されてから九年目を迎えた。千葉県という地域の、しかも、文化の拠点としての公立美術館として、運営目標の「みる・かたる・つくる」美の広場化をめざし、私たちは国分寺時代の公立美術館と揶揄されるなかで、根幹ともいふべき性格形成に努力してきた。「みる」ための作品の計画的な集積、「かたる」ための資料の収集と多様な企画「つくる」

ための興味への実技的な対応と、十年を中途に湖丘の水鳥よろしく、人目には触れないが調査と研究を基礎にした歩みを続けている。

美術館を運営する上からは当然のことながら、ようやく軌道の「みる・かたる・つくる」の理念は公認され始めた。しかも、千葉県から日本と世界を考える視点からの、調査・収集・保管・展示・普及の具体化も意外なほど早く注目された。

特に「朝日ジャーナル」(第一一九七号)の、「千葉県立美術館が浅井忠の資料を集大成」と、性格形成での個性化に対する評価は、私たちのこれからの自信と勇気の源泉であり、激励と受け止めている。

本年度の重点構想

こうした環境のなかで本年度は「みる・かたる・つくる」ための諸事業を構想し始動した。いずれの部門も一連とい

う認識で、利用者サイドに立った配慮を重点にし、学芸事業イコール文化工作との自覚を深めて、すでに常設展の改編体系化から始め、関連の「美術を語る会」や生涯学習の一環としての実技講座の開設に着手し、地域文化の再発見をめざす「鳩川誠一展」(五月二十七日〜六月十七日)の開幕を目前にしている。このほか

秋の特別展「絵地図の魅力展」(九月十一日〜十月十九日)や新春特別展「金工の世界」(一月二十一日〜二月二十四日)を考え、準備に入り、さらに水彩画家の「中西利雄展」(七月二十二日〜八月十九日)や継続企画の「千葉県移動美術館」展(佐倉市中央公民館九月二十一日〜十月三日、柏市中央公民館十月十三日〜十月十九日)などを、会場提供の団体展に平

行して公開を構想している。十周年にむかって

今年さらに着手したいことに「浅井忠賞展」の企画がある。とつびな発想かもしれないが、来年は本館開設十周年に当たる。そこで社会事業のひとつとして、本館が重視している近代洋画の先駆者で、千葉県ゆかりの浅井忠が、生



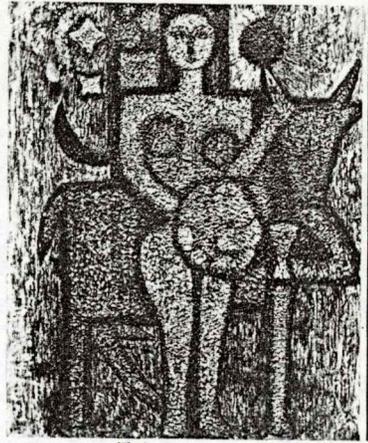
涯を託した写真の画業を顕彰し、継承発展をはかるため浅井忠賞を設定して、公募作品の秀作に贈呈するとともに、入選作と併せて「浅井忠賞展」を開催したいと考えている。これから企画委員会などを設けて協議しなければならぬが、本館らしい地域に立脚した事業として、十年、十五年といった記念事業化ができればともてに写実の画業の振興に資すれば幸いと、すでに原案検討の準備を開始した。

おわりに

窓辺の「すずめがくし」の樹々の若葉をながめ、私は着実に飛躍したい願望から、四月の心境の一端とこれからの事業を摘記した。それにしても、今年もまた有縁の皆さまにご支援をいただかねばと、春の思いはここに帰る。

鳩川誠一展

画業七〇年の回顧



星まつり 1950年

本年度最初の企画展として房総の美術家シリーズ(一一)「鳩川誠一展」画業七〇年の回顧」を五月二十七日(木)より六月十七日(木)まで開催します。

鳩川誠一氏は、本県出身の洋画家で独立美術協会に所属し審査員をつとめ、東洋と西洋の表現的技法を自由に融合し、日本のこころを表現する情趣豊かな作品を次々に生み出しています。

一八九七年(明治三十年)茂原市に生まれ、一九三一年白日会会員、一九四八年には独立美術協会の会員となり、一九七一年国際形象展に招待出

品、ブリュッセル、アントワープにて個展を開き、またヨーロッパ芸術展に招待出品して朱賞(コマンドール位)を受賞し国際的にも高い評価を受け、一九七六年第一回蒼樹会展で文部大臣賞を受賞するなど輝かしい功績を残され、引きつづきニューヨーク、メキシコ等で作品発表が予定されています。

本展は、さきに鳩川誠一氏の代表的作品四十八点が本館に寄贈されたことを記念し、氏の代表的な作品を展示してその軌跡をたどり、画業七〇年の歩みを回顧するた

め開催するものです。

展示内容としては、一九二〇年制作の「関谷風景」より最近作まで、作品約百点およびスケッチブック等を展示し、画業七〇年をじっくりと回顧できるよう企画しました。



裸女と仏陀 1960年

鳩川氏の作品は、「西欧と日本という二つの極の両方からある一定の距離をとりながら自己の道を求めている」と言われるように、直感的にステンドグラスを思わせる墨彩画さらに墨やパステル、油彩、水彩、和紙など、東西のあらゆる技法、材料を自由に駆使して表現された独特な画面は強烈で、水々しい若さをたたえ、必ずや多くの美術愛好家を魅了することでありましよう。

なお、六月五日午後二時より「画業七〇年を回顧して」をテーマに鳩川誠一氏を囲んで美術を語る会を開催しますので、ご期待ください。

また、鳩川氏の全作品を収めた画集が近く刊行されます。詳細については、本館学芸課までお問い合わせ下さい。

設 常 収 蔵 作 品 展

本年度の収蔵作品展は、特別展、県芸術祭等開催予定のため、四月二十七日より九月五日、十二月三日より一月十六日、三月二日より三月三十一日の三期に会期を分けて開催します。現在開催中の本展の内容を紹介すると、浅井忠とその周辺作家の作品、昭和五十六年度の新収蔵作品を中心とし、さらに館収蔵作品のうち房総の美術家として作家をとりあげ紹介します。

主な展示作品は、浅井忠とその周辺作家として、浅井忠「フォンテンブローの森」、松岡寿「森と小川」、安井曾太郎「熱海附近」、都鳥英喜「巴里郊外サンクルール」等の他、浅井忠の日本画、彫塑、工芸等。

新収蔵作品として、不破章「二女」、白滝幾之助「伊国ナポリ」、榊原一広「南仏風景」、長谷川良雄「晩秋」、浅井真「新緑の雑木林」、池田良「Nobody Knows my mind」、信田洋「装瓶(六文銭)」等。

房総の美術家として原勝郎「モンマルトル」、「コーヒー



不破章「二女」

ひき」等、石橋武治「白鷺のいる風景」、「水辺」等。

日本画では、東山魁夷「門」、田岡春径「幽」、関主税「滝」、渡辺学「夜」。

洋画では、髪唄「Angels」、松澤茂雄「海辺の裸婦」、古井洵「黒の浄土(赤)」、石井武夫「DUMMY」、久保木彦「夢の詩」等。

彫塑では、神野義衛「呻」、大須賀力「倚る」等。

なお、六月二十二日から一部展示替えを行い、本館が力を入れ収集しているもの一つである水彩画のコーナーを新たに設け、石井柏亭、小堀進等の作品を展示、また新収蔵作品として、カミーユ・コロ、梅原龍三郎、伊藤快彦、浅見錦龍の作品等を紹介する予定です。

昭和57年度 事業案内

展覧会事業

常設収蔵作品展

会期 4月1日～9月5日
 12月3日～1月16日
 3月2日～3月31日

内容 本館収蔵作品を広く公開し、また資料コーナーなどを設け、多面的に収蔵作品の紹介をする。

特別展「絵地図の魅力展」
 会期 9月11日～10月13日
 内容 人間の地理的世界観を図形化した地図のうち、本県ゆかりの

中西利雄展
 会期 7月22日～8月19日

内容 新制作派協会の結成に参加して会員となり、近代的造型性に富んだ水彩画を生み出した中西利雄氏の業績を紹介する。

第6回千葉県移動美術館
 会期 9月21日～10月3日
 柏市中央公民館

鳩川誠一展

会期 5月27日～6月17日

内容 独立美術協会会で活躍し、洋画に新しい方向を示した鳩川誠一氏の画業をひろく紹介する。

特別展「金工の世界」

会期 1月21日～2月24日

内容 日本の金工界の先駆者として本県出身の香取秀真、津田信夫をはじめ、日本の近代金工作家の作品を中心に展覧し、技法にも触れながら紹介をする。

伊能図をはじめ、屏風絵地図、鳥かん図など、絵地図の絵画性を紹介する。

教育普及事業

10月6日～10月19日
 本館収蔵作品を県内2カ所の会場に展覧し、より広範な地域の県民のため美術作品鑑賞の機会を提供する。

美術講演会

特別展「絵地図の魅力展」及び特別展「金工の世界」に関連して、展覧会の内容等をより深く理解してもらうために開催する。

美術を語る会

収蔵作品展、特別展「鳩川誠一展」、「中西利雄展」に伴い、話題提供者を囲んで作家や作品等について語り合い、知識や理解を深めてもらうために開催する。

実技講座

各講座の基礎的な技法の学習や作る喜び、使う楽しみを味わうなど、県民の芸術創作への一端とするため、本年度は、11種の講座から計20講座を開講する。

◎日本画入門講座(各6日間)

一期 6月
二期 10月

◎洋画入門講座(各6日間)

一期 5月～7月
二期 10月～12月

◎洋画研修講座(各6日間)

一期 5月～7月
二期 8月～10月
三期 11月～12月

◎陶芸入門講座(各6日間)

一期 6月～7月
二期 11月～12月

◎デッサン入門講座(各2日間)

一期 7月
二期 8月
三期 9月

◎てん刻入門講座(各2日間)

一期 8月
二期 11月

◎七宝焼入門講座(各2日間)

一期 9月
二期 1月

◎版画入門講座(7日間)

一期 8月

◎彫塑入門講座(7日間)

一期 9月～10月

◎書芸入門講座(6日間)

一期 9月～1月

◎書芸研修講座(2日間)

一期 3月

内容、日程等詳細については、ごあんない欄で随時紹介します。

* * * *

寄贈作品紹介

昨年度後半、展覧会等に伴い次の資料が寄贈されました。ご厚意にお礼申しあげます。

不破クラ氏より
不破 章

「裁縫女」「御死」他16点

澤部つた氏より
澤部清五郎

「桜」

浅井 忠
「種まきの図」

黒田 暢氏より
加藤源之助

「秋の山(大和初瀬村)」

小林左千夫氏より
小林 儼

「山中湖附近」他5点

長谷川景子氏より
長谷川良雄

「晩秋」「下鴨」他1点

榊原一彦氏より
榊原一広

「南仏風景」

田中志奈子
デッサン「神官」他5点

浅見錦龍氏より
浅見錦龍

「蘭亭序」

兼巻洋子氏より
浅井 忠

「書簡」他47点

新収蔵作品紹介 (VI)

浅井 忠

●寄贈

澤部つた氏より

浅井忠作「種まきの図」(日本画、六一・四×二七・一cm)

浅井は、晩年の京都時代(明治三十五年〜四十年)に日本画を好んで描き、最近浅井の一面として注目されているところである。

中沢岩太は「木魚遺響」浅井の遺稿、追悼集の中で「浅井教授の日本画」として、次のように記している。

……光琳風あり、大津絵あり、蘆雪の筆意を模せるもあり、水彩風あり、又遂に狩野風あり、一度思ひ立つときは、暫時の



種まきの図

研究にして其妙奥を得られたり、已に一技に達せる者、他を要むるに易きの故ならん乎……

この作品は、青墨に水彩絵具で着色された小品であるが、軽快な筆運が戯画風の趣を生み出した佳作である。左中に「黙語」と署名し、「木魚」の書印がなされている。「黙語日本画集」には、同種題材のものゝが数点掲載されており、自然を描きつづけた浅井にとつて好題材のひとつであったと思われる。

初め茶人の猪上七郎左衛門が所有していたが、浅井の弟子加藤源之助が所望して譲り受け、その後やはり弟子の澤部清五郎に贈られ、長く師の追慕の作品として愛蔵されていたものである。

表紙作家の紹介

白滝幾之助

明治6年〜昭和34年(873〜1960) 兵庫県生れ

東京美術学校選科卒業、初め山本芳翠に学んだが、明治29年白馬会結成とともに参加し、黒田清輝に師事した。明治27年第4回内国勸業博覧会で初入選し、以来文展、帝展を通じ約半世紀にわたる息の長い制作活動を行っている。明治38年〜44年まで米國、欧州に留学し、ラファエル・コランに学ぶ。大正12年再び渡欧。表紙の作品はこの時期に描かれたものである。昭和27年、三井コレクションの完成に尽力したこと、及びわが国洋画界の発展に寄与した功績により日本芸術院賞恩賜賞が授与されたが、あわせて、東京音楽学校初演のオペラ、明治座の舞台装置等に、日本最初の洋風舞台装置の先鞭をつけるなど、その功績も絶大だとされた。

トピックス

◆千葉県立美術館協議会が去る3月17日午後2時より本館会議室で行われ、(1)昭和56年度事業の反省、(2)昭和57年度予算案並びに事業計画(3)その他について話し合われた。

昭和56年度事業については特に常設展、資料購入、普及事業等について意見が多く出され、昭和57年度事業計画については、特に特別展、企画展について活発に話し合われた。

◆「版画(銅版)入門講座」が本年度初めて行われた。

「版画入門講座」は、版画家の深沢幸雄氏を講師に1月24日から2月28日まで6日間銅版画の実技講座が行われた。エッチング、アクワチントなどの制作を通して、銅版画の材料・用具・技法等の基礎的な内容について学習し、最終日はスライドにより応用的な技法をも学んだ。

「書芸研修講座」は、県美術会会長の浅見喜舟氏を講師に、「書芸入門講座」を修了した方を対象に3月6日・7日の2日間行われた。楷書、



版画入門講座

行書、草書のほか、隷書や条幅の書き方を学習した。

◆第5回「美術を語る会」が企画展「現代美術選抜展」開催中の2月6日、本展に出品されている渡辺学氏(日本画家)を話題提供者に行われた。「私の絵画観」をテーマに氏の日常の創作活動を通して制作の心構え、姿勢などについて話された。また、本展の会場において氏の作品についても説明され、制作上の苦心談など話された。

◆去る4月28日、本年度第1回の友の会総会が開催された。昨年度の事業並びに決算、監査報告と本年度の事業予算案が審議された。

* * * * *

ごあんない

◎第1回美術を語る会

期日 5月15日
時間 14時～15時半
主題 「収蔵作品展について」

話題提供者

本館学芸員

◎第2回美術を語る会

期日 6月5日
時間 14時～15時半
主題 「画業70年を回顧して」

話題提供者

鳩川誠一氏

◎第1期洋画入門講座

期日 5月22・23日
6月26・27日
7月17・18日

講師 太田洋三氏

◎第1期洋画研修講座

期日 5月29・30日
6月19・20日
7月10・11日

講師 武内和夫氏

◎第1期陶芸入門講座

期日 6月1・2・3日
7月1・8日

講師 保田勝久氏

◎第1期日本画入門講座

期日 6月5・6・12日
7月3・4日

講師 松原道男氏

◎第1期テッサン入門講座

期日 7月22・23日

講師 戸田健夫氏

団体展（5月～7月）

- 第27回二科千葉支部展 5月18日～23日
- 二紀会千葉県支部展 5月18日～23日
- 第9回千虹会日本画展 5月25日～6月6日
- 弥生書展 6月8日～13日
- 千葉県書道協会展 6月8日～13日
- 第3回千葉全展 6月15日～20日
- 第5回一陽会千葉支部展 6月22日～27日
- 第48回習美会初夏展 6月22日～27日
- 展 6月22日～27日
- 第5回82精鋭展 6月22日～7月4日
- 第10回現代書道50人展他 6月29日～7月4日

伝言板

ボランティア活動に参加しませんか

本館では、美術館活動をより県民に密着した形で展開することを目的に、ボランティアを募集しています。

過去二年間、解説活動を中心に、ボランティアの方々の御協力を頂いてきましたが、いずれの展覧会においても、大方の好評を得ることができました。

今年度からは、更に、美術に関するさまざまな情報の収集提供、文献資料等の整理など、その活動の輪を拡げて頂きたいと考えております。多くの方々の御参加を期待します。

友の会入会のお誘い

美術館友の会では、新年度会員を募集しています。ふるってご入会ください。また、継続される方も更新していただきますので手続きをお忘れなく。

入会費 五〇〇円

（新規加入者のみ）

年会費 一五〇〇円

詳細は美術館内友の会事務局へお問い合わせください。

来館者

1月

中西富江氏

陰里鐵郎氏

山梨県立美術館長千沢

榎治氏

佐野美術館副館長鈴木

進氏 他一名

京都工芸繊維大学より

一名

岡山県文化課より二名

栃木県西那須野町教育

委員会より十五名

岩崎巴人御夫妻

愛媛県立美術館紡方氏

佐倉市教育委員会

白井町教育委員会

高橋規矩治郎氏

日誌抄

1月

第4回美術を語る会

入館者百万人を突破

版画入門講座開講

第15回現代美術選抜展

始まる（2月21日まで）

2月

第5回美術を語る会

美術館博物館館長会議

3月

美術館博物館庶務課長

会議

書芸研修講座開講

関東ブロック副館長会

議（神奈川県）

美術館協議会

美術館博物館学芸課長

会議

ボランティア促進協議

会

職員異動

昭和五十七年四月一日付で次の職員の異動がありました。

◆転出者

中村 哲（教育庁文化課へ）

田村 潤子（県立中央図書館へ）

佐久間文孝（県立総南博物館へ）

◆転入者

小野 禮子（教育庁文化課より）

米田 耕司（教育庁文化課より）

武内喜美子（県立中央図書館より）

転出者の労をねぎらうとともに、新しい職員の活躍を期待します。

* * * *